



名古屋部会(第10回)	
日時:	2017年1月21日(土) 15:00 ~ 17:15
場所:	椋山女学園大学星が丘キャンパス(名古屋市千種区)
参加者:	中学校・高等学校・大学の先生方など8名が参加した。
<p>【内容要旨】</p> <p>椋山女学園大学星が丘キャンパスの教室を水野先生の手配により会場としてお借りし、第10回の名古屋部会を開催した。</p> <p>*****</p> <p>第10回の名古屋部会を経済分野の授業の方法についての検討や教材の活用を目的に開催した。最初に経済教育ネットワーク理事長 篠原総一氏(京都学園大学学長)より経済教育ネットワークの目的とこれまでの活動をご紹介頂き、引き続き「教科書で教える「金融」」をテーマにお話し頂いた。高等学校の教科書における4つのトピクスである①貨幣(money)、②金融(finance)、③日本銀行(central bank)、④金融制度改革(reform of the financial system)についてわかりやすく教えるために、教科書に書かれている順番にとらわれず、関連を整理してわかりやすく教えるという観点から再構成した指導の方法についてご説明頂いた。特に、金融で行われている取引や制度は市場メカニズムに基づいて効率的になるように考えられていることを踏まえて教える必要性が示された。一方で、中学校や高等学校では「経済学」ではなく、身近な社会現象としての「経済」を教えるべきであると述べられた。</p> <p>次に、水野英雄(椋山女学園大学現代マネジメント学部准教授)より「女子大学における経済教育の取組と課題」をテーマに椋山女学園大学における経済学に関する授業実践とその課題について紹介があった。株式投資ゲームや貿易ゲーム等の体験型教材の活用や産学連携の課題解決型の取組によるアクティブラーニングは学生に好評であり、学力の向上や学内外のコンクール等での受賞等という成果も挙げられているが、一方で学生にとって経済学は難しい、苦手であるという意見が多い。特に、経済理論が難解であるという学生に対して経済理論をどこまで、どのように教えるべきかについては検討課題であることが示された。</p> <p>質疑応答では、生徒や学生の学力やニーズに合わせて教える内容や難易度を考えていくことやわかりやすく説明するための工夫が大切であることを話し合った。</p> <p>最後に、水野英雄(椋山女学園大学現代マネジメント学部准教授)より次年度の名古屋部会の活動への協力の依頼があった。</p> <p>次回については4月22日(土)に椋山女学園大学にて開催することとした。</p> <p style="text-align: right;">文責： 水野 英雄</p>	
<p>次回開催予定： 2017年4月22日(土) 15:00 ~17:00に、場所は椋山女学園大学星が丘キャンパス(名古屋市)。議題は、教材の紹介や経済教育の進め方に関するディスカッションほか。</p>	